



第33回例会報告 *通算例会回数4103回目* (4月28日 於 今治商工会議所2階 大会議室)

【出席報告】

・会員数 55名 ・出席数 32名 ・欠席数 22名
 ・当日出席率 62.50% ・前々回修正出席率 100%
 <欠席会員>安藤、藤田、原、平田、廣川、神道、片山、小堀、眞鍋、宮道、大澤、岡本、大河内、坂本、八木(正)
 山本、矢野、米北
 [免除会員] 青野(明)、檜垣(巧)、久米、村上
 <4/14欠席補填>(4/25今治北)青野(淳)、檜垣(明)、平尾、平田、廣川、神道、冠、吉良、小堀、近藤、桑森、中村、西信
 尾越、大澤、岡本、田崎、渡邊、八木(正)、八木(真)、八木(伸)、矢野

◇幹事報告

- ・次週5月5日(木)の例会は祝日休会です。次回例会は5月12日(木)です。
- ・事務局GWのお知らせ:4月29日(金)~5月8日(日)までお休みとなります。

◇親睦活動委員会・お誕生日スピーチ

- ・渡辺易廣会員:今年で満70歳になります。可能な限り仕事の量を調整して、好きな小説を読んだり、旅行をしたりして人生を楽しみたいと思います。

会員卓話

◆近藤正人会員 題目:『役に立つかもしれない 雑学講座』

本日はロシア・ウクライナ情勢に関連して、「なぜ民族間紛争が起こるのか?」についてのお話をさせていただきます。▼『民族とは?』:「民族」の定義は、「一定の文化的特徴を基準として他と区別される集団」であり、土地・血縁関係・言語の共有等がその基準となりますが、普遍的基準よりも民族概念への帰属意識の様な主観的基準が客観的基準とされる、すなわち明確な基準を設けることが難しいとも言えます。その例として、私たちが単一国家として認識しているベルギーやスペインにおいても言語、経済的事情により民族的分断が見られます。▼『ロシアvsウクライナ』:現在のロシア・ウクライナ人のルーツは、かつてのキエフ大公国に属していた「スラブ人」であり、キエフ大公国滅亡後にはモンゴル帝国の支配下に置かれるなど不遇な運命を辿ってきた民族と言えます。ロシア側からは両者は同一民族であるという認識が強く、これに反発するウクライナとの思惑の違いが今回の紛争の火種となっています。加えて、黒海に位置するクリミア半島やオデッサ等の不凍港の奪還、食料供給圏である穀倉地帯の占領、そして西側諸国に対する盾として役割といったロシアの目論見も侵攻の要因として挙げられます。▼『イギリス?UKでは』:「イギリス」の正式名称は「グレートブリテン及び北アイルランド連合王国」であり、略称として「UK」が使われ、その国旗(ユニオンジャック)はイングランド・スコットランド・北アイルランドのそれぞれの国旗柄を反映したものとなっています。この「UK」内でも、スコットランド人によるイングランド人への嫌悪感、宗教的理由による北アイルランド問題等の事象を抱えています。またイギリスは所謂「ジェントルマンの国」と言われますが、階級社会を起因とする教育的格差や上流階級による植民地統治等を鑑みると、「ジェントルマンの国」とは言い切れない側面も見られます。▼『天皇という呼称』:「皇帝」とは中国のトップのみ呼称であり、その他の国々は中国大陸の臣下として「国王」という名称を使っていましたが、日本はその支配下には置かれていないことを主張する意味で「天皇」という名称が作られたとされています。



次回例会(5月12日)

【米山記念奨学生卓話】

<会員誕生日祝> 岡田 昌平氏 (5/14) 檜垣 巧氏 (5/16)

<結婚記念日祝> 西本 信保氏 (5/14) 中村 哲也氏 (5/15)

[俣屋]